

「一年の計は元旦にあり」

いよいよ今年も残すところわずかとなりました。生徒の皆さんにとって、どのような一年であったでしょうか？この一年をしっかりと振り返り、それをもとに各々が来年の抱負を持って、新たな年を迎えるようにしましょう。

そこで、各学年において目標としてもらいたい例を挙げますので参考にしてください。

1年生・・・将来を見据えた行動を

進級する系が決定し、これから専門的な学習が始まります。少なくともその系で取得すべき基本的な資格や技術を身に付けて欲しいと思います。併せて、普通教科にもこれまで以上に力を注ぎ、バランスのとれた学習を行う必要があります。知識の栄養に偏りがないように吸収し、しっかりとした学力の土台を作りましょう。また、部活動と学習の両立を目指し、中堅学年として鹿工の中心となる覚悟をもちましょう。そのためには、先を見据えた行動と、一人ひとりが学校を活性化させようという気持ちを持って生活しましょう。

2年生・・・具体的な進路先の決定

進路決定の年となります。11月に行われたインターンシップで学んだ知識や経験なども参考に、将来の道を具体的に決めていかなければなりません。保護者や担任の先生と意見交換を行い、早めに行動することが大切です。企業研究や進学先の研究を行い、自分の人生設計に妥協を許さず将来の自分のために時間と力を注いでいきましょう。ただし、進路実現のためには、しっかりとした学力はもちろん部活動などへの取り組む姿勢も大事になります。学校の顔である3年生としての自覚を持ちましょう。

3年生・・・新たな進路への備え

高校生活も残り僅かとなってきました。高校生活でやり残したことはないでしょうか？就職内定者は、入社後に必要な技術や知識のスキルアップを行っていますか？そのことを怠ると同期入社の人と比べ、スタートが出遅れることになり、“こんなはずでは・・・”と後悔することになります。そのために、今やるべきこと（企業からの課題など）を一つひとつ丁寧にやり、社会人としてよいスタートを切れるように準備しましょう。また、進学者もこれからより専門的な知識を学ぶため、その基礎となる分野あるいは、新しい分野の学習をしておくことが必要です。残り僅かな高校生活を有意義に過ごし、4月からの新生活へ繋げましょう。

「コミュニケーション能力」を養うために

社会に出るにあたり、コミュニケーション能力が必要であることは皆さんも感じていることでしょう。この能力は、一説によると度胸力、論理力、理解力、応答力、**語彙力**、説得力、プレゼン力の7つの総合的なものであるといわれています。中でも様々なことを表現をする基礎は、**語彙力**が重要です。この力を伸ばすには読書など活字を読む習慣を身に付けることが大切といわれています。

冬を迎え、室内での生活が増えてくることもあるので、時間を有効活用し、読書に時間を割いて**語彙力**を伸ばすように心がけましょう。



大学入試改革

本校の進学者の多くは、指定校推薦や AO 入試、一般推薦を利用した試験を利用しています。高大接続改革としてこれらの試験の名称も変更となり、大学入試改革が行われている最中であります。

文部科学省は、これからは知識の量だけではなく、主体性をもって問題に取り組み、答えを生み出し、新たな価値を創造していくことのできる人間を育てることを目指すことを明言しています。

今回の大学入試改革では、「学力の3要素」がキーワードになっています。学力の3要素とは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」とされています。この学力の3要素のうち、「知識・技能」に偏った評価から多面的・総合的評価を行い、学力の3要素を適切に評価する動きとなっています。

表1に示す総合型選抜や学校推薦型選抜において、出願書類だけでなく、小論文や口頭試問、共通テストなどの評価方法を活用することを必須と予想されます。一部で「学力不問になっている」といった批判があるため、学力を重視した内容への転換が推測されます。

知識・技能については、「義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得」と「それによる高校生の学習意欲の喚起」を図るため、多様な学習成果を測定するツールの一つとして活用できるよう、来年度から「学びの基礎診断」という名称で実施される予定となっています。この診断を通して、自分の知識・技能について知り、不足している部分については、結果の分析を行い、克服していくことになります。

思考力・判断力・表現力は、すべて“課題発見・解決”に役立つものです。知識・技能偏重の試験ではマークシートによる解答でしたが、知識・技能を生かし、どのように解答を導き出せばいいか考え、解答を作成する記述式の問題が盛り込まれます。これからの社会を生き抜く力を養う為にこの力は必要であり、一朝一夕に養われるものではないので、日常から課題を見つけ、それを解決する習慣を身に付けていく必要があります。

主体性・多様性・協働性について特に問われているのは、「主体性」です。「主体的に」問題の解決を思考し、判断し、その過程や結果を表現する能力が問われています。その課程や結果を表現するために、自分が行ってきた活動を記録するポートフォリオ力が必要となってきます。

eポートフォリオについて

eポートフォリオは、高大接続改革の1つとして導入されます。eポートフォリオとは、Web上で高校生活の活動を記録、振り返りができるようにするもので、主体性等の評価に欠かせない探究活動の記録(課題設定の経緯に始まり、参考文献、実験、調査、論文、フィールドスタディ、プレゼンデータ、場合によっては大学研究室訪問の記録、各種コンテストへの参加記録や結果など)や、特別活動や部活動をはじめ、ボランティアなどの学校内外の諸活動、海外留学経験、資格・検定試験の結果などです。重要なことは、生徒本人が「気づき」を入力することにあります。例えば、実験での失敗から、何を感じ、考え、次の実験に向けてどのように取り組んだかという学びのプロセスが大事です。このように探究活動の記録を蓄積することから、総合型選抜(これまでのAO入試)や学校推薦型選抜(これまでの推薦)でのプロセス評価での活用として利用されると考えられます。

以上のことから、手帳やポートフォリオを活用し、自分の進路実現に向けて記録をしっかりと残していく必要性を改めて考えて欲しいです。

(参考資料:大学ジャーナル ON LIINE, JAPAN e-Portfolio Web ページ)

表1 入試制度名の変更

現名称	→	変更後
一般入試	→	一般選抜
AO入試	→	総合型選抜
推薦入試	→	学校推薦型選抜

